



# 北区の水辺マップ NEW!

凡例  
 ビューポイント  
 砂丘

② 太夫浜の池  
 わき水からなる砂丘湖。現在は工場の敷地内に入って入ることはできません。

## ① ひょうたん池 (松浜の池)



空撮：NPO法人新潟水辺の会 (撮影者：王 毅)

ひょうたん池は、もとは阿賀野川の河口にできたせきとめ湖でしたが、今は砂丘地から水がわき上がっています。ヒシなど水生植物が多く、オオモノサシトンボなど貴重な生き物が生息しています。



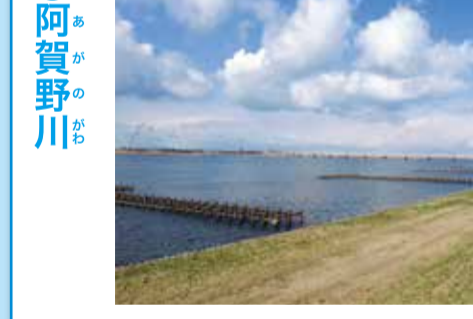
## ③ 濁川自然生態観察園



初代の新井郷川排水機場のあった場所でしたが、ビオトープとして整備されました。多くの種類のトンボが確認され、トンボ池とも呼ばれています。



## ④ 阿賀野川



福島県・群馬県に源流をもつ阿賀野川は、全長210km。河口付近の幅は約1kmあり、下流部の水量は全国最大級です。河川敷や中州には、サギをはじめいろいろな生き物が生息しています。



## ⑤ 新発田川



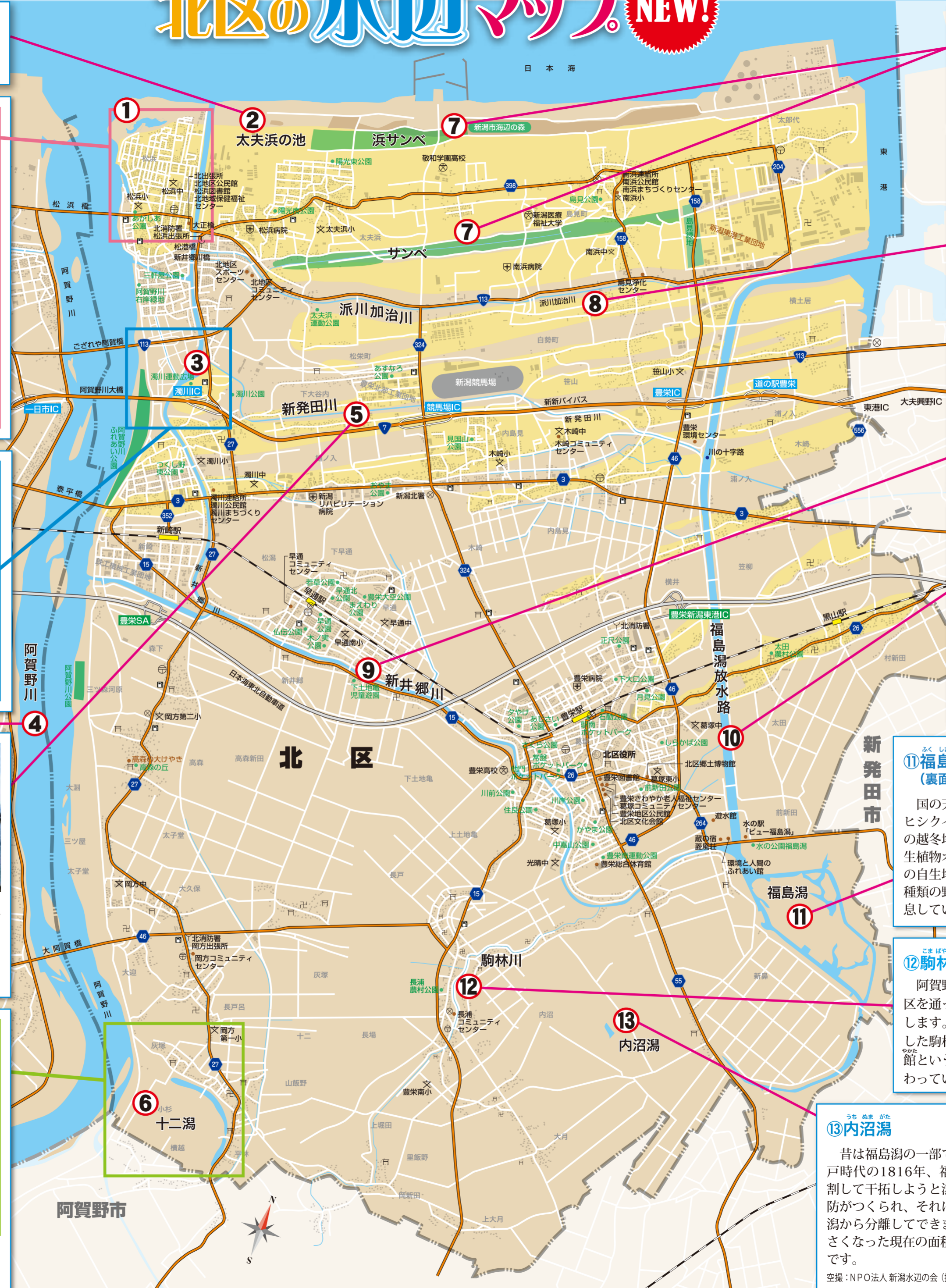
砂丘列の間を通り、木崎地区を西へ流れて新井郷川へ合流します。福島潟放水路と新発田川が交差する「川の十字路口」を見ることができます。

## ⑥ 十二潟



空撮：NPO法人新潟水辺の会 (撮影者：王 毅)

かつて大きく蛇行していた阿賀野川の一部でしたが、今は三日月湖として残っています。古阿賀とも呼ばれ、アサザ・ガガブタなど希少植物が生息しています。



⑦ 浜サンベとサンベ  
 5000年以上前からつくられてきた砂丘列は、葛塚地区から海岸まで9列あります。その砂丘列と砂丘列の間にある低湿地帯をサンベ (山辺) といい、特に海に近い方は、浜サンベと呼ばれています。わき水を利用した稲作が行われています。

## ⑧ 派川加治川

1914年に次第浜を河口とする現在の加治川ができるまで、加治川の本流が川幅は72mもあったそうです。東港建設で上流と分断され、現在は新井郷川からポンプで送られて、横土居、笹山の農業用水として使われた水がこの川の水源になっています。



## ⑨ 新井郷川

福島潟を水源に北区だけを流れ海に注ぎます。昔は阿賀野川へ合流していた、明治から昭和初期には新潟の萬代橋付近から、通船川・阿賀野川・新井郷川を通過して葛塚まで、蒸気船が運行していました。



## ⑩ 福島潟放水路

1960年代の連続水害をきっかけに福島潟と海を直につなぐ放水路建設が計画されました。計画から35年、2003年に完成した水路の長さは6.7kmです。



空撮：NPO法人新潟水辺の会 (撮影者：王 毅)

## ⑪ 福島潟 (裏面に特集あり)

国の天然記念物オオヒシクイの日本最大級の越冬地で、希少な水生植物オニバスの北限の自生地です。多くの種類の野鳥や植物が生息しています。



空撮：NPO法人新潟水辺の会 (撮影者：王 毅)

## ⑫ 駒林川

阿賀野市から北区長浦地区を通過して新井郷川に合流します。約500年前、蛇行した駒林川を堀にして長場館という城館があったと伝わっています。



## ⑬ 内沼潟

昔は福島潟の一部でした。江戸時代の1816年、福島潟を分割して干拓しようと潟の中に堤防がつくれ、それにより福島潟から分離してできました。小さくなった現在の面積は1.15haです。



空撮：NPO法人新潟水辺の会 (撮影者：王 毅)